

# 「アトイズ」が育む創造性

八学短大部・佐貫氏  
地域社会研で講演



ハ  
戸

八戸地域社会研究会（高橋俊行会長）は15日、八戸市の八戸プラザホテルで例会を開いた。八戸学院大学短期大学部幼児保育学科の佐貫巧准教授が、アートを通じて子どもたちの創造性を育み、まちづくり活動に取り組んでいる現代芸術教室「アトイズ」について講演し、芸術に対する自らの考えを語った。

アトイズは八戸市を拠点に活動している3〜10歳の子どもを対象とした造形教室で、佐貫氏が2014年度に

「アトイズ」の活動を紹介し、芸術に対する考え方を語る佐貫氏

開講した。エッセンシャルワーカーに感謝の気持ちを伝える「ハチノヘブルー」などのプロジェクトを实践、地域や八戸市美術館のイベント、教育普及プログラムへ参画し、多様な活動を展開している。

佐貫氏は「子どもが本来持っている発想力を引き出し、創造と表現の楽しみ方を学ぶ過程に価値があることを伝えたい」とアトイズ活動の意義を説明。「芸術とは、分かり合えない人たちと分かり合う手段、仲良くやる知恵」とし、「感動したことを伝え合うことが芸術であり、それは人間として大きな喜びとと思う」と語った。米国の心理学者・哲学者ウィリアム・ジェイムズの言葉をひもとき、「心が変われば行動、習慣、人格、運命が変わる」と強調した。

（近藤弘樹）